

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

大阪公立大学附属病院肝胆膵外科での国内外科研修を終えて

獨協医科大学埼玉医療センター外科

目黒 創也

この度、日本臨床外科学会研修プログラムにより、令和5年10月2日から10月27日までの4週間、大阪公立大学医学部附属病院肝胆膵外科で研修させていただきました。このような貴重な機会を与えてくださいました、日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長に深く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症の影響が未だ見え隠れする時期にも関わらず、私を受け入れてくださいました大阪公立大学医学部附属病院肝胆膵外科の石沢教授をはじめとするスタッフや専攻医の先生方、秘書の皆様方に心から感謝申し上げます。

私は2015年に獨協医科大学を卒業し、獨協医科大学越谷病院で初期研修を終え、学生の頃からの憧れである外科の医局に入局しました。当院は消化管とも同じ医局のため早くから執刀の機会に恵まれ、消化器外科を幅広く修練することができました。その中でも肝胆膵外科は分野としても幅広く、腫瘍学的にも困難な病気も多いため興味を持ちました。臨床の現場では、複雑な症例をはじめとした開腹手術や消化管を含む鏡視下手術も経験させていただきました。消化管領域などで鏡視下手術主流の時代が来て久しいですが、肝胆膵領域も多くの病院でロボットをはじめとした鏡視下手術に広く取り組まれています。しかし、自施設での特に肝臓の鏡視下手術は症例も少なく、なかなか経験が積めないと感じていた折、日本臨床外科学会国内外科研修制度の募集があり、大阪公立大学医学部附属病院での研修を行う機会を得ました。

大阪公立大学医学部附属病院は大阪市の天王寺区、周辺には寺院や商店街が並ぶ文化や歴史が息づくエリアに位置し、通天閣のある有名な新世界へは歩いて5分程度の約1,000床の病床数を有する特定機能病院です。

肝胆膵外科は年間約300例の手術件数があり、その中でも肝臓手術は6割近くが鏡視下で行われており、鏡視下手術のノウハウが膨大に蓄積された関西圏でも有数の教室です。

学術面においても研究に対しての設備、専門家体制が充実しており、臨床・基礎研究を着実に進めるために大学院生の方々が日々のhard workingのなか熱心に研究をされていたのが印象的であり、大変感銘を受けました。教室としての歴史と在り方を再確認させられ、臨床一辺倒であった自分を大いに反省し今後活かしていきたいと感じました。カンファレンスでは活発な議論が行われており、入念な術前症例の検討、入院患者のマネジメントがされていました。カンサーボードにおいても肝胆膵外科医が中心となって、内科・放射線科・病理の先生方と個々の症例の方向性に関して診療科間での連携が円滑に行われていました。

研修期間中は13件の肝臓手術と5件の膵臓手術を見学させていただきました。鏡視下肝臓手術が特に多い月でしたが、その中でも鏡視下肝臓手術の第一助手、部分執刀までさせていただき、直接、ご指導賜うことができたことは今回の研修において最も幸運なことだったと感じています。実際執刀する中で木下先生から離断時のデバイスの動かし方、肝の術野展開の力加減等、映像やセミナーだけでは学べない貴重なアドバイスを手術を通してご指導していただきました。

石沢教授の下、ICG染色法はnegative staining・positive stainingに限らず、術中の血管走行の確認やリンパ流の確認などにも積極的に使用されており、術野に直接ICG領域を投影する技術等、先進的な蛍

光イメージング技術の活用を研究されていました。

また、若手の先生方の執刀手術も多く手術中は穏やかな雰囲気だけでなく、時には上級医からの叱咤激励もあり、妥協の無い指導をするという上級医の先生の気概も感じられ、また、それに応えようと奮起する先生の熱意も双方から感じられ、非常に良い雰囲気です。手術されていたのが印象的でした。外科医育成は常々課題があるものですが、こういったモチベーションの高さが高い臨床レベルを保ちつつ優秀な外科医の育成につながっていると感じました。

今回、研修期間中には幸運にもロボット支援下膝頭十二指腸切除術を見学することができました。大阪公立大学では腹腔鏡下の膝切除も以前から行われており、新しい技術も積極的に取り入れつつ、手術中も術者と助手の先生方で積極的なディスカッションが行われており、より良い手術となるように全員が同じ方向を向いて手術と向き合っているのが実感でき、実際の手術場で解説付きで見学することができて大変感銘を受けました。

研修期間中には隣接するスキルシミュレーションセンターにて学生を対象とした医局説明会+結紮縫合研修会が開催され、臨床に興味のある学生を相手に結紮や縫合について講習が行われていました。定期的に開催されており、全国的に外科医不足に悩まされる昨今、こういった機会を積極的に行っており、臨床・研究のみならず教育分野にも力を入れている様子が間近で見られ大変参考になりました。

4週間、最大限に研修させていただきましたが、それでも短いと感じるくらいあっという間に濃密な時間は過ぎて行ってしまいました。医局としても和やかな雰囲気、初めての関西圏の病院で緊張していた私にフランクに話しかけて下さり、病院のこと、手術のこと、留学のことなど様々なお話を伺えたことが、ビデオを見るだけでは得られない体験をさせていただいたと感じました。今後の外科医人生に大きな糧とモチベーションになったと確信しております。

最後になりますが、石沢教授をはじめとした大阪公立大学肝胆膵外科の皆様にも再度感謝申し上げます。また、ご推薦いただきました日本臨床外科学会埼玉県支部長の土屋長二先生、快く送り出してくれた獨協医科大学埼玉医療センター外科の吉富秀幸教授、研修中の不在の間代診していただきました当科医局員の一同にお礼申し上げます。誠にありがとうございました。